

## 令和3年度 吉田町総合教育会議 会議録

- 1 開催期日 令和3年11月15日(月) 午前10時00分
- 2 場 所 吉田町役場5階 会議室2
- 3 出席者 田村 典彦 町長、山田 泰巳 教育長  
塚本 成男 教育委員、北澤 雅恵 教育委員  
増田 真也 教育委員、中村 成宏 教育委員  
事務局 桑田 真男 学校教育課長、内田 宏一 生涯学習課長  
水嶋 浩之 主席指導主事、平井 奉子 指導主事  
谷澤 宏昭 指導主事、山村 加奈子 教育総務統括  
山内 康弘 教育振興統括
- 4 議事内容

### 1 開会

#### ○事務局

それでは定刻となりましたので、始めさせていただきますと思います。開会に先立ちまして相互の挨拶を交わしたいと思いますので、御起立をお願いします。一同礼。御着席ください。

ただいまから、令和3年度吉田町総合教育会議を開会いたします。本日は大変お忙しい中、御出席を賜り誠にありがとうございます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます吉田町教育委員会学校教育課の桑田と申します。よろしく願いいたします。

それでは早速でございますが、次第に沿って進めさせていただきます。

始めに、吉田町長から御挨拶申し上げます。

#### (1) 町長あいさつ

##### ○田村町長

皆さんこんにちは。令和3年度の総合教育会議に御参加いただきまして、誠にありがとうございます。この頃は、皆さんGIGAスクール構想、IT化、そういう中で1人1台のパソコンと、それから電子黒板であるとか、いろいろな形のものが教育の現場に持ち込まれて、教育が変わったような印象を受けるのですが、私は何も変わっていないと思っているんです。先生がいて、生徒が

いて、先生が一方的に話をして、生徒がそれを受けて、頭の中で反芻をして、知識として定着させていく。現在の学校も、パソコンなどいろいろなものを使いながら、確かに先生がいて、児童生徒がいて、全体として輪の中に入っているわけですから。その中で伸展性って言うんですかね。それぞれの人に考えさせて、それぞれの人の意見が交わされる。そこで知識として共有的なことが生まれる。かつ伸展性ですね。以前は先生と生徒が1対1でやっていた。これが全体的な広がり方で、先生と児童生徒が全体としてあると。このところで知識がですね、おそらく伸展的なものになってくると。そう言ってもまあ反芻していくのですが、最終的には知識が伸びてくる、広がる伸展性ですね。伸展性が生まれてくると。そういうところだと思っんですね。そういう中で、どんどん教育が機械的には変わった印象を受けるのですが、今申し上げたとおり、本質的には何も変わっていないと。

私は、結構教育には厳しい注文を付ける人間なのですが、一番問題点とするのは、最終的には先生が授業をします、以前も現在もそうしていますが、結果として必ず答えが出るんですよね。先生の努力の結果は何ですかと。その結果というものは、例えばひとつの形で言うと、学力学習状況調査の結果であるとか、いろいろなものがあるんです。そういう中で答えが出るという時に、その答えを先生方に今度はフィードバックした時に、先生方がどこに問題があったのか。どんなことをしたらよろしいのか。そういう総合的なものがそこから出てくることを期待しているのですが、なかなか出てこない。ぜひともそういう仕事のアウトプットを教育の中において分かりやすく、イメージ的に出すような形にしていってもらいたい、こんなふうに思っています。以上です。よろしくお願ひします。

○事務局

ありがとうございました。続きまして教育長から御挨拶をいただきます。

## (2) 教育長あいさつ

○山田教育長

おはようございます。今日はお忙しい中ありがとうございます。総合教育会議は、町長と直接お話ができる貴重な機会ですので、ぜひ日頃学校を見たりだとか、また、皆さん保護者の立場の方も多いものですから、教育委員会の委員という立場で学校を見て回った様子。そして保護者の立場で見ての感想等、そんなことも一緒に伺えるといいかなと思っています。今、町長から学力であったり、授業、教員の授業改善、そうしたことについてお話がありましたが、このTCPトリビンスプランについては、その三者共益という言葉をやった

ますので、子供にとっても教職員にとっても保護者にとってもという三つの立場から見た時に、どういう環境を整えていってあげれば、子供たちの学力を伸ばしていくことができるのかということから始まっていますから、今日の議題はTCPトリビンスプランにさせていただいていますので、是非そうした視点からそれぞれの立場にとってどうなのかといったところを御意見いただければと思っています。

このTCPトリビンスプランの一番最初の言葉というのが、教育元気物語というのが付いているんですね。教育元気物語TCPトリビンスプラン。元気になるような施策をうちながら、結果としてそれが付いてくる形が一番望ましいことですので、今、町の方でも一生懸命予算を付けてくれながら、環境を整える準備をしてくれていますので、そうした意味でそれが効果的に使えて、結果につながっていくのかということも大きなポイントになるのかなと思っています。今日はどうぞ忌憚のない御意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

#### ○事務局

ありがとうございました。それでは、早速議事に入ります。ここからの議事進行につきましては、田村町長、よろしく願いいたします。

## 2 議事

### (1) TCPトリビンスプランについて

#### ○田村町長

それでは次第に沿って議事を進行してまいります。本日の議事は、一つでございます。それでは、「TCPトリビンスプランについて」を議題といたします。事務局の説明を求めます。

#### ○事務局

それでは私、桑田から、TCPトリビンスプランについて御説明いたします。資料は、お手元の資料No.1から5になります。

TCPトリビンスプランは、教職員、子供、保護者の三者が、共に利益を得る、三者共益となるよう、町の教育方針として定めたもので、平成29年2月の総合教育会議において合意され、実施されてきたプランであります。

その後、一昨年、令和元年度の総合教育会議において提示されました、プランのこれまでの取組状況と令和2年度から5年度までの4年間を一区切りとした今後の方向性について定めた冊子に基づいて、教育委員会では、事業を実施してきたところでございます。

本日は、その取組状況、今後の方向性について施策ごとに報告させていただきました、併せて、プランの目標にあります、全国学調と県学調の結果、教職員の勤務時間の実態、それから、教職員及び保護者のアンケート結果についても、説明させていただきます。その後、委員の皆様にご協議いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まずは、資料1をご覧ください。こちらが、TCPトリビンスプランでうたっている、TCPの三つの柱、「子供の『確かな学力』を保障する環境づくり」、「教職員が授業等に専念できる環境づくり」、「保護者、家庭の教育ニーズに応じた環境づくり」のために実施しているそれぞれの事業であります。

このうち、アの「授業日の平準化」は子供、教職員、保護者、全てに関連する事業となりますので、この三つの柱に横串を通すような見せ方をしております、以下、柱ごとの事業が縦のラインにあるようなとおりとなっております。

また、この三つの柱を支える基盤的整備としまして、「快適な教育環境の整備」、「ICT環境の充実」、「コミュニティ・スクールの整備」を示しております。

それでは、このプランのこれまでの取組状況と今後の方向性を示したものが、資料No.2になりますので、こちらの資料を基に、施策ごとに説明させていただきます。

資料No.2の5ページをご覧ください。

まず一つ目の柱、「子供の『確かな学力』を保障する環境づくり」の進捗状況と取組の方向性についてです。この取組は、各学校における授業改善とそれに基づく教育活動の充実のために行われるもので、アからキまでの施策の実施を通して、その実現を図ることとし、その指標は、各種学力調査の結果を用いることとするものとして、指標を示しております。指標1には、全国学力・学習状況調査の平均正答率が県平均以上、指標2には、中学校における県学力調査の平均正答率が県平均以上を目標としております。

それでは、その結果をご覧いただきたいと思いますので、資料No.3をご覧ください。

「全国学力・学習状況調査の平均正答率の経年比較について」ということで、平成25年度から今年度までの小学校と中学校の静岡県との比較をグラフにしてあります。

赤みの色が付いているものが、県平均を上回った時となりますので、その時のその教科は、目標が達成されていることとなりますが、マイナスの表示があるものは、県平均以下ということになりますので、目標には達成していないということになります。

令和2年度は、全国学調は実施されなかったため、折れ線グラフの縦軸は0.0に合せてあります。経年で見ていきますと、小学校は、およそ隔年で県平

均以上となっており、中学校は、残念ながら、一度も県平均に達していないという状況になります。中学校は、25年以降、一度も県平均には到達していませんが、徐々に平均値に近くなっており、学力の向上は少なからず図られていると言えるのではないかと考えております。

次に、指標2の中学校における県学調の県平均以上の目標についてですが、県学調の当町の結果については、公表しておりませんので、ここで数値を明らかにすることはできませんが、令和2年度の県学調の国、社、数、理、英の5教科について、吉田中学校の平均点と県の平均点とを比較しますと、残念ながら、県平均に達していない結果となっております。

しかしながら、中学3年生の5教科の平均点は、県平均にわずかに及ばなかった結果であったり、他の学年でも、5教科の平均では県平均を下回ったものの、教科によっては、県平均を上回ったものもありますので、今後の対策としまして、点数の低い結果となった教科に対してしっかりと分析をしながら、授業改善につなげていく必要があると考えます。

それでは、この結果を踏まえ、一つ目の柱の「子供の『確かな学力』を保障する環境づくり」について、資料No.2にお戻りいただいて、説明させていただきます。

アの「授業日の平準化」ですが、こちらは、授業日数を増やし、1日の授業時間数を減らすことで、放課後時間を確保するための取組で、目指す状態としては、その②にありますとおり、小学校は週当たり25コマ程度、繁忙期の意図的な4時間日の設定、中学校は、週当たり28コマ程度、繁忙期の意図的な6時間日の削減としております。

取組状況の経過としましては、授業日数は、令和3年度については小学校は211日、中学校は205日として実施しております。

次のページにお進みいただいて、各学校ごとの週の時間割はご覧のとおりとなっており、令和3年度の時間割をご覧いただきますと、小学校、中学校ともに、目指す状態である「小学校の意図的な4時間日の設定や中学校の意図的な6時間日の削減」が実行されていると言えます。

④の「成果と課題」としましては、小学校は授業日の平準化がなされていると言えますが、中学校は、授業時間数を減らすことはできていますが、授業日数を増やすことができていないため、数値として見える平準化には至っていないのではないかとと言えます。

しかしながら、7ページ⑤の教職員の主な意見を見ますと、資料No.5も併せてご覧いただきたいと思うのですが、資料No.5は、先月10月に町内小中学校の教職員に対して、TCPトリビンスプランの取組に対する評価アンケートを実施したもので、107件の先生から回答をいただいたものです。

このアンケートの(1)の問いが、平準化に関するアンケートで、「授業日の平準化により放課後の時間を生み出したことは、教員の授業準備の時間を確保し、子供の学力を保障することにつながっている」に対して、「大いに思う」が青い部分ですが、31.8%、「概ね思う」が赤い部分で51.4%、というように肯定的な意見が83.2%であるという結果が出ておりました、そのアンケートに対する具体的な意見が、資料No.2の7ページに掲載させていただいておりますが、「放課後が有効的に使えています。」や「他市町から異動してきたが、吉田町では時間的な余裕をかなり持つことができました。」などの教職員の肯定的な意見が出ております。

このアンケートの結果を見ても、肯定的な意見が80%以上ありますので、資料No.2の8ページ⑪にある指標、「授業日の平準化により授業準備の時間を多く確保できたと考える教員の割合」が80%以上、「放課後時間に余裕が持っていると感じる教員の割合」が80%以上の指標を達成しており、平準化の有効性が高いことが伺えます。

続きまして、9ページのイ「外国語・国際理解教育の推進」です。

新学習指導要領において、小学校3年生からの外国語活動、5年生からの教科としての外国語の授業の対応、また、中学校の外国語授業のさらなる充実のために、町内各小中学校にALTを1人ずつ配置する取組です。

こちらは、皆さん御承知のとおり、平成29年度からALTを各校1人ずつ配置しており、教職員のアンケート結果を見ると、ALTが子供の英語学習の充実につながっていると肯定的な回答をした割合が96.2%あることから、有効性の高さが伺えますので、引き続き、ALT4人を雇用していく必要があると考えます。

続きまして、11ページ、ウの「小学校におけるプログラミング教育の充実」についてです。

こちらにも新学習指導要領において導入された「プログラミング教育」について、吉田町プログラミング教育モデルカリキュラムを作成し、そのカリキュラムに基づいた指導をしていく取組になります。

小学校において、昨年度、プログラミング教材となるMESHを導入し、ICT支援員の助けを借りながら、5、6年生で活用してまいりましたが、本年度からは小学校3年生以上で活用している状況にあります。

教職員のアンケートでは、「MESHは、子供のプログラミング的思考を高めることにつながっているか」という問いで、MESHに特化して聞いているので、プログラミング教育全体としての充実という意味での回答を満たしていない部分はありますが、ここでの教職員の肯定的な意見は69%となっており、7割近くの教職員が有効であると捉えています。今後も、MESHを活用しな

がら、モデルカリキュラムを継続的に実践していく必要があると考えます。

次に、13ページのエ「調査結果に基づいた授業実践」です。

ここでいう調査結果とは、平成29年度にTCPトリビンスプランを立ち上げた時点では、平成26年度から実施していた町独自の学力調査、吉田町学力調査の調査結果のことを提示していたもので、この結果を授業改善や家庭学習に生かすことを目的として実施していたものですが、中学校では令和元年度から、小学校は本年度から町学調を実施しないことになり、それに代わり、全国学調や県学調の調査結果、中学校では中間テストを活用し、教師の授業改善や子供の学力向上を目指すことに方向性を変えた形で示しております。

教職員のアンケートは、中学校の教師だけに質問したものになりますが、資料No.5の2ページの一番上、(4)の「学校独自の中間テストを実施したことは、教師が生徒の学習状況をタイムリーに評価し、指導に結びつけることで、学力向上につながっている」という問いについては、肯定的な意見は84.3%と、こちらも高い数字を示しておりますので、中間テスト実施の有効性は高いと考えます。

今後の方向性としましては、全国学調や県学調、小中学校で実施するテスト等を活用し、その成果や課題を分析するとともに、併せて、1人1台端末を活用しながら、学力向上を図っていきたいと考えております。

次に、オの「補充学習、発展学習の充実」です。14ページになります。

これは、二つの施策があります。教員補助の配置と公設学習塾の実施です。目指す状態としては、学力定着に課題を抱える子供に対して、きめ細かい指導を実施することで、全ての子供が確かな学力を身に付けることができる状態を目指します。

こちらの教職員のアンケートは、肯定的な意見が90.7%と非常に高い評価となっています。教員補助は、町の会計年度任用職員として現在、20人ほど採用しておりまして、一つの学校に5人程度配置できており、他市町に比べて非常に手厚い配置となっております。公設学習塾については、16ページの今年度の実施状況をご覧いただいてもお分かりのとおり、非常に充実した日程で実施しております。今後についても、教員補助の配置、公設学習塾についてより良い形で継続していく必要があります。

次に、カ「個に応じた支援の充実」です。17ページになります。

これは、特別な教育的支援が必要な子供に対して支援する教員補助や外国人の児童生徒に対する相談員の配置により、障害の有無や国籍等に関わらず、全ての子供たちが確かな学力を身に付けることができる状態を目指す施策であります。

アンケート結果については、こちらも肯定的な意見が非常に高く、96.3%

もの教職員が施策の有効性を評価しています。

次に、キの「幼保小中一貫教育の推進」です。19ページになります。

この取組内容としては、二つありまして、20ページにあります。一つは、幼保小のつながりのある教育の推進、もう一つは、小中学校のつながりのある教育の推進です。

幼保小のつながりのある教育につきましては、千葉大学の松寄教授に御指導いただき、28年度に幼児教育カリキュラム、29年度にその教師用指導書、30年度には、幼児教育で育てた力を小学校へ円滑につなげるためのスタートカリキュラムを作成し、幼保小のつながりのある教育を推進してまいりました。

また、小中学校のつながりのある教育につきましては、平成30年3月から國學院大學の田村教授を座長といたしまして、「小中学校のつながりのある教育検討委員会」を設置し、総合的な学習の時間の充実を図ることの大切さを説き、令和2年度からは静岡大学の藤井准教授を座長とし、吉田探究を中心としながら、幅を広げた小中学校のつながりを模索している状況にあります。

教職員のアンケートは、肯定的な意見が80.4%で、今後も効果的な取組内容で継続していく必要があると考えます。

ここまでが一つ目の柱、「子供の『確かな学力』を保障する環境づくり」です。

続きまして、二つ目の柱、「教職員が授業等に専念できる環境づくり」を説明させていただきます。

この取組は、各学校における学習指導要領に対応した授業改善のための準備時間の生み出しと、教職員の多忙化の解消のために行われるもので、アからエまでの施策の実施を通して、その実現を図ることとしているもので、その指標といたしまして、教員の働き方改革による超過勤務時間の縮減を目指すものとなっております。

指標1としまして、超過勤務時間が月80時間を超える教職員数は0人、指標2としまして、月当たりの超過勤務時間の年間平均は45時間となっております。

それでは、この実態をご覧いただきたいと思います。資料No.4をご覧いただきたいと思います。

「時間外勤務時間が1か月当たり80時間を超えた教職員人数の推移」というページの方を最初にご覧いただきたいのですが、1が平均人数、2がその割合を表しております。

指標としては、80時間を超える教職員は0人としており、本年度においても0人になってはおりませんが、平成28年度から比較すると、大きく人数が減っていることが見て取れます。

中学校で言えば、平成28年度は55%の先生方が月80時間を超えていましたが、今年度は13%あまりまで減っています。小学校は8%あまりとなっております。

また、裏面の2ページをご覧くださいと、こちらは、時間外勤務時間数の推移となっております。真ん中の2が「1か月の平均時間数」となっておりますが、指標となる45時間までは、小中学校ともに到達しておりませんが、これまでの推移を見ますと、年々、超過勤務時間が下がっており、働き方改革はある程度認められるのではないかと考えます。

この実態を踏まえまして、二つ目の施策の内容を説明させていただきます。資料No.2の23ページにお戻りください。

アの「授業日の平準化」の取組内容につきましては、先ほど説明したとおりでありますが、アンケートの意見を載せさせていただいております。このアンケートの質問内容は、「平準化により、超過勤務時間の削減につながっている」という問いになりますが、それに対する肯定的な意見が79.4%となっております。

先ほどの資料No.4のグラフで見て、年々、時間外勤務時間が少なくなっていることから、そうした肯定的な意見の多さにつながったものと捉えております。

続いて、イの「学校閉庁日の設定」です。夏休み、冬休み期間に、一定期間学校を閉庁し、その期間は学校内の警備を外部委託するもので、教職員の連続した年次有給休暇の取得を促すものとなっております。

こちらのアンケート結果も肯定的な意見が多く、97.2%の数値を示しておりますので、引き続き、継続していく施策であると考えます。

続きまして、25ページ、ウの「校務の支援」です。教員の業務を物理的に減らしたり、効率化を図ったりするなどして、時間の生み出しによる教材研究時間の確保や多忙化解消を図る取組です。具体的には、校務支援システムの電算能力の強化に伴う効率化、それから、校務アシスタントや給食配膳員、学校用務員や部活動指導員の配置です。アンケートについても、高評価で、肯定的な意見が94.6%にも上ります。今後も引き続き、効果的に実施していく必要があると考えます。

続きまして、27ページ。エの「教職員の研修体制の充実」です。目指す状態としては、教職員が学習指導要領を踏まえた指導方法を習得することで、教職員の資質能力の向上につながることを目標としております。研修は年2回行われる全教職員研修会をメインとして、昨今では、ICTに係る研修を毎月のように実施しております。アンケート結果としては、肯定的な意見が85.9%で、研修の必要性の高さが伺えます。こちら今後も継続的に実施していく必要があります。

ここまでの、二つ目の柱「教職員が授業等に専念できる環境づくり」でありまして、続いて、三つ目の柱となります「保護者（家庭）の教育ニーズに応じた環境づくり」について、説明させていただきます。29ページになります。

この取組は、家庭との連携や保護者の教育ニーズに応えるために行われるもので、アからエまでの施策の実施を通して、その実現を図ることとし、その指標としては、保護者の学校教育に対する満足度としておりまして、その満足度の割合は、80%以上としております。

保護者に対しましても、教職員と同様、先月、アンケート調査を行いまして、1,089件の保護者から回答をいただいております。

それでは、三つ目の柱の施策を説明させていただきますが、アの施策は、先ほどと同様ですので省略しまして、イの「学校給食の実施日の拡張」についてになります。

授業日の平準化により、学校の登校日が多くなり、学校給食の実施日も、登校日が増えた分、年間の給食提供日が実質増加いたしますので、保護者の負担軽減が図られる取組であります。平成28年度までは、年間177日の給食提供日数が、29年度以降大幅に増え、本年度を見ていただきますと、自彊小学校が一番多く、195日給食を提供しています。

アンケートについての肯定的な意見は、92.6%となっており、保護者からの意見も、「働く親にとっては本当にありがたい」などの感謝の声が多く寄せられました。今後も、登校日については、可能な限り給食を提供する必要があると考えます。

続いて、ウ「放課後の子供の居場所づくり」です。資料No.2の31ページです。授業日の平準化に伴い、5時間日や4時間日が増えることで、子供の放課後の居場所づくりを提供する取組です。

この事業は、公設学習塾や放課後子ども教室、放課後児童クラブを町が提供する居場所として掲載しています。

アンケートについては、77.6%が肯定的な意見となっております。他のアンケートに比べると、若干肯定的な意見が少ないですが、これは、この三つの事業を利用していない保護者がいることから、「放課後の居場所があるとは、あまり思わない」と否定的な意見を回答した保護者がいることが想定されます。今後とも、これらの事業を推進しながら、家庭教育の大切さも併せて働きかけていく必要があります。

続いて、34ページになります、エの「問題行動のない落ち着いた教育環境の実現」です。学校における生徒指導機能の強化や相談機能の強化により、問題行動等の未然防止及び問題行動等への対応の充実を図る取組です。これに対する人的配置としまして、教育相談員を1人、教育委員会事務局に配置、また、

町内全小中学校にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子どもと親の相談員を派遣し、子供と保護者のケアに当たっています。保護者アンケートの肯定的な意見は81.4%で、高い満足度を示しています。今後も、学校の実態を踏まえながら、効果的に継続していく必要があります。

以上が三つ目の柱の「保護者（家庭）の教育ニーズに応じた環境づくり」についてとなります。

それでは、最後に、(4)として先ほど説明しました「(1)から(3)の三つの柱を支える基盤的整備」になります。36ページをご覧くださいと思います。

まず、アの「快適な教育環境の整備」についてです。これは、小中学校の校舎の設備整備としまして、エアコンの整備と、トイレの洋式化、教室照明のLED化であります。

平成29年度に小中学校の普通教室、特別教室全ての教室にエアコンを設置いたしました。照明も平成29年度に全てLED化、平成30年度にはトイレの洋式化を全校で完了し、令和元年度には全小中学校体育館のエアコンの設置も完了いたしました。このことにつきましては、全国の設置状況を見ても、非常に早い段階で設置が完了した状況にありました。

アンケートをご覧くださいますと、教職員、保護者ともにアンケートで聞いているのですが、満足度は非常に高く、教職員の肯定的な意見は98.2%、保護者は96.9%となっております。

続いて、イの「ICT環境の充実」です。39ページになります。国が示すGIGAスクール構想を踏まえまして、1人1台端末の配備、それに伴うWi-Fi環境の整備などの取組となっております。御承知のとおり、昨年度末で1人1台端末配備が完了し、町内小中学校の普通教室と特別教室の理科室において、Wi-Fi環境が整備されました。また、今年度までに、電子黒板を含む大型提示装置の全ての普通教室への配備が完了し、学校の授業が、端末をはじめとしたICT機器を介して行われることが当たり前という形になり、それに伴う授業の深化につながることを現在、目指しております。

こちらに関する、アンケートの意見も教職員、保護者ともに高い満足度を示しており、教職員97.2%、保護者90.1%の肯定的な意見をいただいております。

今後については、まだWi-Fi環境が整備されていない特別教室への整備や端末がクロームブックに統一できていない学校があるので、それらの整備が必要となっております。

最後に、ウの「コミュニティ・スクールの整備」についてです。42ページになります。このコミュニティ・スクールにつきましては、昨年の総合教育会議の議題とさせていただきます。来年、令和4年度から全ての小中学校で実

施していくことでお認めいただいた施策になります。各校に学校運営協議会を設置し、学校における教育活動が目標に沿って効果的に展開していくことができるようにする取組となります。

現在、各校においてCSディレクターの選考を行っていると聞いております。コミュニティ・スクールにつきましては、まだ、始まっていない事業ですので、来年度以降の検証になりますので、御承知いただければと思います。

以上、長くなりましたが、TCPトリビンスプランの取組状況と今後の方向性について、説明させていただきました。

プランの目標1の全国学調・県学調の結果は、県平均以上に常時達することはできていませんでしたが、平成25年からの経年で見れば、少しずつ県平均に近づいており、教職員のアンケートでは、満足度が高いことが伺えましたことから、質の高い授業が今後さらに展開され、県平均を上回れるような学力の向上が期待できるのではないかと考えます。

目標2の教職員の働き方改革による超過勤務時間の縮減については、指標1、指標2の数値としては、達成できませんでしたが、資料No.4のグラフを見ていただいてもお分かりのとおり、年々、縮減されておりましたので、「教員の働き方改革による超過勤務時間の縮減」とする目標は達成していると言えます。

また、目標3の「保護者の学校教育に対する満足度80%以上」につきましては、放課後の居場所については77.6%と80%を達しない結果となりましたが、それ以外は、80%以上、それどころか90%以上の満足度を示している結果となったことから、目標はおおむね達成と言っていいといえます。

事務局といたしましては、先ほど説明したとおり、引き続き、このプランを資料No.2のとおり継続して進めていくこととしたいと考えますので、また、委員の皆さんで御協議をいただければと思います。

事務局からの説明は、以上となります。

#### ○田村町長

ご苦労様でした。それでは、まず最初に、「子供の『確かな学力』を保障する環境づくり」について御意見を伺い、協議してまいりたいと思います。今後の方向性として、事務局から説明がございましたが、教育委員の皆さんから、もっと充実した方が良く、逆にもっと改善・変更した方が良くなどの御意見や、教育委員として、さらに保護者として、どう思うか等の御感想などを伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### ○塚本委員

説明ありがとうございました。長らくTCPトリビンスプランをやっていく

中で、実績が積み上がってきたなと思っているのですが、評価の中で非常に保護者も教職員も高い評価をいただいているということで、継続していく大切さと、町当局にはですね、非常に予算を当てていただいて、環境整備を進めてくださっていることに感謝を申し上げたいところです。

しかし、関係者に対する評価はすごく高いのに、私だけじゃないと思うのですが、教育委員として私の評価とすると、環境整備が学力向上に果たしてつながっているのかというところが、非常に気になるところです。例えば、普通の企業だと、働き方とか、休みをたくさん取らせたり、給料を上げたりということで、会社の環境を整えたりということで、何のためにやるかという主な目的は、いい人材を確保するためというのが主な目的だと思うんですね。ただ、学校におけると、吉田町で先生を雇用することができないので、なかなかその目的が、学校の先生が働きやすくていい学校、吉田町は働きやすい環境だとしても、吉田町で先生を単独で雇用することはないものですから、なかなか環境と良い人材というのは、直接リンクしないのだろうなと思います。ただ、必要なことなので、すごく評価もされているということで、今後も良い環境整備をしていくことが必要だと思うのですが、とにかく、それと学力を上げるということは、リンクするようになるためには何が必要かということで。こういう場の議論でも、この現場の先生からも聞いてみたいと思います。吉田町の子供たち、この三者共益で、子供と教職員と保護者の全てがWinになるっていうことでトリビンスプランは作られています、その上には教育というのは、吉田町の子供たちが健やかに育ってもらいたいとか、学力を付けてもらいたいってのが一番のメイン。そのために三者共益のスキームを作っているわけなので。子供たちが健やかに育って学力が付いているという評価が得られるまでは、何かしら改善しながら進めていかなければいけないところだなと感じています。

#### ○田村町長

塚本委員の意見は、結構トリビンスプランの総括的なところなのですが、今お話を聞いているところは、1番目の「子供の『確かな学力』を保障する環境づくり」について、個別に聞いているものですから、それに特化して御意見をいただけるとありがたいのですが。

#### ○塚本委員

そうすると、1番ということですね。特に全てが評価されているところだと思うのですが、プログラミング教育の充実が、GIGAスクールが始まったことで、他市町に比べても非常に力を入れて実践されているなということがあって、これはさらに今も支援の先生を増やしていただいています、そういった

ものを充実させていく、環境を整備していくことは、継続してやっていくべきだと感じています。

○田村町長

増田委員、何かありますか。授業日の平準化であるとか、個別の案件で御意見をいただければありがたいのですが。

○増田委員

まず、保護者として学校に授業参観に行ったり、読み聞かせに行ったり、また、教育委員として学校訪問をしたりする中で、最近の子供の様子なのですが、非常に落ち着いて明るく元気に取り組んでいるというのは思います。タブレット、1人1台端末が入ったことによって、タブレットに触れている子供たちを見て、非常にICT化が進んだことによって、より教育の環境が良くなったなと思います。ただ、コロナ禍でマスクをして登校したりということになっているものですから、立哨の時とか、すごく元気がないと言うか、あいさつが小さくなっているところもあります。

今、御報告をいただいたとおり、実際に目標ですね、目標の県平均以上を達成できなかったということは、まあ事実でありますので、現状を変える必要があると。何かができるはずであろうと思うんですね。それ以外のハード設備等のハード面は、非常に充実していると。校務アシスタントやICTの支援員も非常に高い評価を得ている。要は何が足りないのかということですが、前回の委員会ですかね、正答数の県比較と全国比較からの学力層の偏りという分析というのを聞いたのですが。満点に近い子が非常に少ない。0点に近い子が非常に少ない。つまり、中間層が非常に多いという結果を教えてもらったんですね。なので、公設学習塾、補充学習、家庭学習によって、その下のところの子は引き上げられたと思うのですが、中間層の子がよりもっと上に行くための施策というのがプラスアルファで必要なのではないかなと思うんですね。それで個別最適化と言うのでしょうか。個々の学力に応じた学習機会の提供というのを、よりもっと進めていく必要があるのではないかなと思います。ただ、もちろん一番大事なのは、全ての子供に学習を保障しているのか。全ての子供に基礎的、基本的な知識理解を定着させる。それが最も大事なのですが、それに加えてそれぞれの学習進度に応じた、例えば、ICTが今進んでいますので、ドリルのようなものとか、どんどん進めていけるようなそういう環境を作ってあげるのがいいのではないかなと思います。

○田村町長

北澤委員はどうでしょうか。

○北澤委員

子供の確かな学力を保障するためには、やっぱり先生たちが元気になるということが最初にあるかと思うのですが、日々忙しい業務の中で、子供と接する時間が持てない。授業を自分たちで研究する時間が持てないという声がとても多いというのを聞いてきましたので、このトリビンスプランを継続していくことで、少しずつ先生たちの超過勤務等が減っている。適正な、しっかりしたものになってきたということを感じています。その中で、子供たちに向き合う時間を本当に確保していただきたいというのが、親としては思うところでした。本当にこのトリビンスプランの中で、子供たちの確かな学力を保障する環境づくりというのは、本当に充実しているなというのを改めて思いました。

A L Tの方々が日々学校にいる環境というのは、他の市町の人から見たら、うらやましい環境なのだろうと感じますし、G I G Aスクール構想も、今、全国的に進めてはいるのですが、吉田町は早いと。先生たちも、コロナもあったので、急激に子供たちも必要となってきた部分もあるのですけれども、本当にI C Tにかかる研修の時間というのがすごく増えたという気がしていたので、そういった時にこの平準化は必要だと。本当に結果を出すというのがなかなか難しいのは承知なのですが、目標を持たないと先生方も子供たちもある程度目標を持つということがすごく大事だという気がするので、どこへ自分たちが向かっているのか。特に中学生に関しては、吉田町からこれから出ても、高校受験を考えると、県平均を超えるという目標は悪くはないとすごく感じているので。これだけを見ているわけでもないのですが、先生たちも子供たちをどこへ引っ張っていきたいのかという目標を出していただけると、やっぱりそういった意識改革で子供たちも変わっていくのかなというのも期待しています。あと、すごく人材を確保してくださっているの、これがこのまま続いて確保してもらえればうれしいなと思っています。

○田村町長

中村委員、いかがですか。

○中村委員

まず、平準化の件なのですが、非常に高い評価を得ているということですが、実際に私も中央小で学習支援をしておりますので、先生方の様子を見ているのですが、今まで経験してきた放課後の先生方の様子と比べると、明らかにゆと

りがある。せわしない仕事をしていないって言うんですかね。そういった様子が伺えます。ですので、先生方が放課後を有効に使えていますという意見があるのですが、多分そうなのだろうなど。一部忙しい人はいるのかもしれないのですが、全体的な雰囲気としてそうだなというものは、肌感覚として受け取っています。そういった意味で子供に向き合うゆとりというような面についても感じているところです。

学力の問題が出ましたが、先ほど増田委員から話があった、よく二つの山があるのが、吉田町では一つの山ということなのですが、学力の低層って言うか、その子たちが少なくなっているというのは、非常にいいことだと思っています。というのは、どうしても今、どこの学校も多くは二つ山になっていて、できる子はできるんだけど、できない子がなかなか上がってこないことに苦しんでいることが多いので。そういった意味では学力が低い子供たちが上がっているというのは、とてもありがたいことだと思うし。それは支援の充実ですよ。私も含めて支援の方々困っている子にかかわれることが、そういった意味で救われていることが多いのではないかなと思うと同時に、あとはICTにかかわる支援というのが本当に充実していて、隣の町で勤めていましたが、はっきり言ってうらやましかったですね。

実際に先生方も非常によく業者とかかかわって教えてもらっていたりとか、それが日常的に行われていたり。それから、ICT担当が常時授業を巡回している様子も見ていて、その都度困っている先生にかかわったり、あるいは困っている人がその担当者に相談したりというのが、常に行われているようなところで、非常に活用も充実していると言うのですかね、という状況にあるなと思っています。なかなか成果が上がらないことに関しては、難しい点があるとは思いますが。これについては、13ページにも書いてあるのですが、結果をどう生かしていくかというのが検討課題になっているので、これをどう充実させていくかと言うか、具体的にしていくかというのが課題なのではないかと思いました。

#### ○田村町長

以前、教育長と話をしたことがあるのですが、塚本委員からも出た「良き人材をいかに確保するか」。これは、単純な話、先生の交流範囲というか、勤務環境ですかね、その範囲というものがあるのだそうですね。榛原郡とか。志太とは基本的には交流であってですね。違うのだそうですね。それは法的にそうなのかなと言えば違って、長い間、おそらく通勤時間であるとか、そういう形で作られてきたのだと思うのですが。だから、榛原郡の中で先生がぐるぐる動いているだけなんですよ、基本的には。いわゆる志太との交流は、

基本的には特例なんですよ。もっと大きな範囲でのいわゆる先生方の交流がないとですね。先生方の環境として、みんなにとっていい環境。それが子供にとっていいかどうかは別ですが、そういうやり方もあるような感じがしているのですが。そんなものをカバーすることができないのかと、以前教育長とは話したことがあるのですが。そういうのを含めて総括的に話をさせていただきますか。

#### ○山田教育長

職員の交流に関しては、これは良い面でも悪い面でもあって。交流というのは、ある程度の期間が限定されながら、また自分の地元に戻るっていう形になるのですが。吉田町の中ではなくて、他地区の方でいろいろなことを学んでいる人たちがここに来てくれて、刺激を与えてくれて、いろいろな情報を与えてくれる。そこを吉田町の人たちも学んでいくというのが、すごくプラスになるんですね。それこそ、どこの市町も良い先生が欲しいというのは望むところであり、校長先生も望むところであると思うのですが、教職員の資質能力については、差があることも事実で。先ほどICTの話題もありましたが、その活用能力についても様々な程度があるのが現実です。今のお話を皆さんから聞いていると、環境については、吉田町はかなり整えてくれていると。お金を掛けてくれているということは、皆さん認めているし、おそらく教員自身もそのことについては、十分な理解をしていると思うんですね。その上で、話題になっているのは、環境は整えていると、じゃあそれを学力の向上にどうつなげるかというところが、一番大きな課題になっていると思うんです。そうなってくると、今度やらなければいけないことは、教員の指導力であったり授業力をいかに伸ばして行って、先ほど個別最適な学びということがありましたが、個々の能力をどうやって引き出して行ってあげるのか、引き上げて行ってあげるのかというところが、大きな課題になってくるんだろうと思っています。

どうしても教員からすると、そんなに結果って簡単に出不いよってところを、一つの言い訳にもなる場所であるものだから、そこをいかにして結果につなげていくのかというところは、大きな課題というか、認識を変えていかなければいけないところなのかなと思っています。毎年分析をしていると、大体どこの学校でもどこの市町でも出てくるのは、なかなか記述式の問題ができないとか、算数、数学でいけば、証明の問題、関数の問題ってなかなかできないとか、国語で読解力がなかなか付いていないなどというのは、大体毎年出てくる課題は同じなんです。同じ課題がずっと毎年続いているというのは、じゃあそれに対してどう対応していたのかというところを逆に問われることになるので、そこがどうなっているのか、そこを付けるためにどうしているのか

ということが、やっぱり日々の授業改善であったり、個別への対応であったりするのかなと思います。

よく文科省が言うのには、全国学力学習状況調査で出している問題というのは、子供たちに付きたい力なのだと。付いていってほしい力を試すために、こういう問題を出しているのだと言っているんですね。そうしたら、どういう問題を出すことによって、子供たちが対応できるのかというのは、やっぱり授業の中で、別に過去の問題をやっても悪くはないわけで、宿題として出しても悪くないわけで。今回、文科省が「MEXCBT（メクビット）」という新しいシステムを動かそうとしているんですね。そのMEXCBTというのが、過去の全国学力学習状況調査の問題を、データ上で見られるように提供するというもので。それから、実際にはいろいろな自治体で独自の問題を作って、要は、学力調査をやっているところがあって、そうしたものも、そのMEXCBTの中に入れて、誰もが見られるような状況を作るという取組をしていきます。

そして、それについては、登録もしていかなければいけないので、吉田町もそこに是非参加をして、せっかく1人1台端末で、こういう環境があるので、そうしたものを授業の中にも取り入れるし、先ほどの増田委員も、中間層をいかに伸ばすとか、家庭に帰ればそこにいつでもアクセスできて、個々にどんどん取り組んでいけるので、そうした環境も町としても整えてあげる。そうしていけば、実は、そのMEXCBTの学習履歴も、教員が把握することができるようになっていっているものだから、誰がどの問題をやっているのかとか、そういうものの進捗状況も全部分かってくるということで、そうした把握も含めて、教員がどうやって授業の中にそういったものを生かしていくのか。国が求めている力というのをどうやって付けていくのか。そうしたこともやっていくことが必要なのではないかと思います。

ICT支援員の話も先ほど出してくれましたが、授業の中でどう効果的に使うかということに関しては、かなりICT支援員が効果を発揮してくれているということを聞いていますので。そうしたことも授業に取り入れながら、やっていくことが必要なのではないかと思います。

調査結果に基づいた授業実践という項目がありますので、これからテストをやりっぱなしではなくて、それをどう生かしていくかということにもつなげていかなければ、目標の県平均以上には、なかなか達成できなくなってしまうので、そこが一番のキモかなと思いました。

○田村町長

先ほどの話を聞いて一つ言わせていただきたいのは、それぞれの市町で、それぞれの市町の学力の結果がですね、県平均を超えているかどうかを誰も発表

しないのですね、そこをオープンにしてもらいたいなど。なぜ吉田町がこんなにも学力の向上に重きをおくかというのは、15の春に卒業します。その時に、卒業された子供さんたちが、他の市町の子供さんに頭一つ抜きん出てもらいたいというのがあって。学力が上になればなるほどですね、見える世界が広がるのですよね。これが決定的な、いわゆる人間が成長していく一つの大きな効果なんですよね。世界が見える。そういったことをですね、学力の向上に願うわけでございますけれども。また先生方には、そういうところを、吉田のことを考えていただければありがたいなと思っています。

それでは次にですね、「教職員が授業等に専念できる環境づくり」について、御意見を伺ってまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

#### ○塚本委員

本当にこれまでやってきたプランが評価されている、教員のアンケートで評価されていると感じていますので。特に、校務アシスタントですとか、支援員ですね。その辺の充実というのは、本当に予算組みをしていただいてありがたいなと現場も感じていますし、保護者としても子供たちに手厚く対応していただいていると。支援が必要な子供を含めてですが、すごく手厚い支援をしていただいているので、継続して行っていただきたいなと思います。

それと質問みたいになるのですが、研修体制の充実というのがあるのですが、果たしてどういう研修体制を整えたら一番成果があるのかを。今は、町全体の教職員研修会。まあ、研修があつて授業の研究ができない、時間がとれないという意見もありますが、やっぱりレベルアップしていくためには研修をしていただく。今は効率的にネットを使っても研修できるようになっていますので、その辺を現場の先生たちが自分から伸びていくという意識をしっかりともらえるような研修の新しい仕組みというか、それが何か考えられたらなど。さらに一歩進んだ研修体制の充実を検討していただきたいと思います。

#### ○増田委員

私は、子供の学力が伸びる一つとして、教師になりたいと思う子が増えたら学力が伸びるのではないかと思うのですよね。学校の先生になりたい、じゃあもっと頑張ろうということで、そうすると、学校の先生になりたいと思うには、教師が生き生きと生活をしていく必要があると思うのですが。それには平準化というのが、非常に力になっているのではないかなと思うので、授業日の平準化については、効果があると思っています。先ほど塚本委員からもありましたが、校務アシスタントとICT支援員が、現場で非常に好評なものですから、また引き続き同じように手厚い御支援をいただければなと思います。

あと、ICTの導入によって、これまではやはりベテランの先生が若手の先生を指導する、まあ当然ですが、それに加えて、ICTができる比較的若い先生が多いものですから、若い先生からベテランの先生へ教えるということで、先生間の交流が深まったという話も聞きましたので、ぜひこのICTの充実も引き続きお願いできればと思います。

#### ○北澤委員

先生たちの健康が、やっぱり一番ということがあるのかもしれませんが。学校の環境を整えるということも、自分たちが大事だということ、しっかり先生たちにも意識をしていただいて。アンケートの方にも、本当に肯定的な意見が多く見られるのですが、やはり否定的な部分にもしっかりと目を向けていかなければいけないなというのを感じました。特に、具体的な部分では、超過勤務がかつてないほど多い状態となっているという声が上がっているのは、これはもう本人の問題なのかもしれませんが、そういった一つ一つをフォローしていくことが大事なのではないかなと思っています。どこの職場もそうなのですが、1人で抱え込む状況になり得るということで。子供たちに勉強を教えるというだけではなくて、いろいろなものを教える立場である先生方の健康が、一番なのではないかということを考えて進めていただきたいと思います。先生たちもそれを分かっていたいただきたいなと思っています。

あと、吉田町の3小学校、1中学校の横のつながりを、最近先生たちの中でも感じるように、先生たちが意識してきているのをすごく感じます。小中つながりのある教育というのを進めていますので、小学校の先生が中学校までを見据えて、今の小学校3年生の子供たちに何ができるかということ、考えているというのを聞いて、すごく楽しみだなと感じまして。今先生が持たれたその子供たちが、何年後にだんだん成長して行って、ああ楽しみだなと感じましたので。逆に、中学校の先生にも、小学校の問題を意識した発言が増えているので、いいなというのを感じています。そういった面でも、本当に町の全体研修会というのは、良いと思っているのではないかと感じています。なので、より先生たちが参加したい、逆に楽しみにしていただける研修を町で考えてもらいたいというのが一つあります。

#### ○田村町長

中村委員、お願いします。

#### ○中村委員

校務アシスタントについては、本当にありがたいなと思います。自分も教頭

時代に中央小に勤めていたのですが、例えば、印刷をするにしても、770人から780人くらいいて、全戸に配布する資料、プリントを作ると、1締半印刷するんですね。それを自分でやるとなると、単純にいつても、ものすごく時間が掛かるわけで。それを結局各学級に仕分けしたりとかというのは、まあ印刷業務なのですが、単純に言えばそういうことなんですね。本当に助かるということだなと思います。そういったものがいろいろ、小破修理であったり、そういったものもやってくれる方がいらっしゃる。そういったことは大変ありがたいし、管理職も含めて、いろいろなことが専念できる環境ができるなと思います。

町の研修体制については、先ほどの小中一貫教育という(1)にもかかわるのですが、現状他市町が一貫教育を進めてきているというか、これは市町の事情によって、ある意味一貫校を作らざるを得ない状況が生まれてきているわけですが。そういった中で本町をどうしていくかというか、小中交流だとか、そういったものを、今後人事の関係も絡んでくるとは思うのですが、一貫校の先生が隣町にいと、その人たちが来るためにはという、そういった意識も当然必要になってくるとは思うのですが。そういった意味で、小中の交流の充実というのは、図っていくことが求められるのではないかなと思います。

#### ○山田教育長

今ちょうど小中一貫の話が出ましたが、今まで一貫ではなくても、小中連携ということがあったりしますよね。なかなか小学校の先生が中学校の授業を見たり、中学校の先生が小学校の授業を見たりする機会は、そんなにたくさんあるわけではない。吉田町では、吉田探究、総合的な学習の時間を、義務教育の中で小中つながりを持ちながらやっていくという話をしながら言っていますけど、じゃあ小学校で一体どういう授業をやっているということを生で見る機会が、そんなにたくさんあるわけではない。それは国語や算数や理科やという、そういう教科の授業もまた同じような感じのところもあるので。さっきの学力の向上を考えても、やっぱり、一体小学校でどういうふうな授業をやっているのか。それをどうやって中学校につなげていくのか、高めていくのかというようなことを、やっぱり生で1回見ながら感じなくてはいけないのだろうなと思うんですね。

幸いなことに、1人1台端末で、今オンラインでいろいろなことができますから、例えば、小学校である先生がやっている授業というのを、そのままオンラインで見えるような形になれば、わざわざ行かなくても、その行く時間が省略できるので、空き時間にそういう授業が見れるとか、そういった形にしていけば、少なからず今よりも理解をしていく、実態を理解していくということは

できるのだろうとは感じます。

先ほど研修体制の充実という話も出ているのですが、これもまた学力の向上につながって、教員の指導力とか授業力とかっていうところなのですが、実は今年から若手の教員の育成というのを図っていこうということで。1年目の初任者の時は、結構手厚く初任者の研修をやっていくのですが、2年目になるともうそうした研修がほとんどなくなってきて、自分で頑張らなければいけない。ところが、やっぱり2年目、3年目で壁に当たる教員って結構多いものですからね。臨時講師をやっている人も含めて、まだ経験の浅い人を学校教育課の指導主事が実際に授業を見て、アドバイスをしたりとか、励ましたりという機会をやるって、今年からちょっと始めました。それを含めてですね、以前吉田町では、教師未来塾というのをやっていたと思うのですが。教員を育てていくということをやっていないといけないのだろうと思います。全体の研修ももちろん効果的ではあるのですが、個別にそうやって直接1対1で話ができたりということ、生の内容を聞いたりとか、アドバイスをしたりだとかということも。まあ、これは今年から始めたものは、来年も継続をして、そして、若手の育成ということはしていった方がいいだろうなと思いますし。本当は学校の中で、ベテランと若手でやりとりをしてできるのが一番いいのですが、なかなか今は先ほどの勤務時間の話でもないですが、忙しさというのもありまして、そこに行政としてもこうやってやりますということは、示していった方がいいかなと思いました。

それと人的な部分での吉田町の手厚い配置というのは、本当に他市町からするとうらやましがられるところがあると思うんです。校務アシスタントもそうですし、ICT支援員もなぜ吉田町がICTを先行してできているかという、一つには学校教育課の指導主事がリードをしてやっている部分と、それからもう一つは、実際に学校の中でICT支援員をいろいろなトラブルの活用にもできているし、ICTをどうやって授業の中に効果的に生かしていくかという支援をしてくれているというのが、他市町に比べて進んでいる大きな要因だろうと思います。いろいろなものがそうですが、付けて終わりではなくて、付けたものがどうやって効果的に活用できるのか。いわゆる費用対効果を求められるところもあるかと思いますが、今までもいろいろなものを付けたのはいいけれども、環境を整えたはいいけれども、それがどうやって使われていて、どうやって結果に結び付いているのかが必ず問われるものですから、効果的な活用に結び付けるという人材の活用をしていかなければいけないだろうと思いました。

そして、最後に大きな課題は、勤務時間の話が出ましたが、80時間という数字を出しているのは、以前に話題になった過労死ラインというものですよね。

ところが、今言われているのは、月の時間外勤務時間を45時間以内に抑えましょうっていうことが、県の条例であったり、教育委員会の規則であったりというところに定められていく。吉田町は今、ガイドラインとしてそれを45時間以内というのを出していますが、本年度中に教育委員会規則を整理して、教育委員会規則の中にそれをうたっていくという形で進めていく手順になるかなと思います。実際には罰則規定はないのですが、45時間以内に収められるようにという、時間的な数値の目標というのができているのですが、じゃあそれを達成するためにどうすればいいかという、やっぱり業務改善をしていかなければいけない。そこが伴っていかないと、時間だけを短縮することはできないので、今後の大きな課題は、どうやってそうした業務の見直しをして、時間短縮が図れるかというところが、大きな課題になってくるかなと。これはまた学校とも相談し、行政として何ができるかを考えていかなければいけない問題だなと思います。

#### ○田村町長

授業の平準化で一番難しいのは、先生方は本当に自分が先生として勤務するに当たって、どうしてあげればいいのかと。どうしてあげれば、自分たちが、いわゆる授業に力を付けて各子供の学力がアップできますかと。先生方のそういう要求っていうんですかね、これはやめてくれとか、そうしたら先生方が全ての時間を子供に振り向けますと。その結果として、必ず子供の学力がアップしますよと。何をしてもらえばいいか。例えば、一つは、学校閉庁日ってありますよね。これは先生の勤務であるとか、それから自己研鑽。だったら、夏休みを全て学校閉庁日にしてしまえばいいじゃないかと、冬休みも全部休みにしてしまえばいいじゃないの。全部先生方が動かせばいいじゃないのと、これも一つの考え方なんですけど。その時に結果として学力向上してくれますかっていう、ここがある。先生方はそれを強く求めれば求めるほど、結果が要求される度合いがものすごく強くなってきますよね。どんな会社でもそうなんですよね。結果を出してくれなければ、何の意味もないですよ。そこを先生方がどんなふうにお考えになっているのか。その授業の体制の問題も含めて、大きく鳥の目で見ただけだとありがたいなと。一回鳥の目を見て、それをやっていただくとありがたいなと思っています。

さらになにか付け加える御意見は、皆さんございませんか。

#### ○塚本委員

一つ質問なのですが、県の基準だと45時間というのは、市町の支援員とか予算をつけて人的支援をしてきたことで、ある程度減らしてきている現状があ

る中で、さらに減らせというからには、人的支援というのが、県の教育委員会の規則にあるのだったら、そういう予算的支援が望めるのですか。

○山田教育長

国、県では、吉田町でいう校務アシスタントという、教員でなくてもできるような仕事を補助できるような人を入れることで、教員の忙しさを少しでも解消してあげるといふようなところの取組を、スクールサポートスタッフという名称でやっているのですが、ついこの前も、もう少し時間を増やして配分できるということで、県の方から来たのですが。今、県が表面的によく見える形でやっているのは、そのスクールサポートスタッフと言われるものです。ですから、吉田町は、県のスクールサポートスタッフと町がやっている校務アシスタントと両方付いているので、これも以前、3年間指定で夢プロジェクトいうものを、住吉小学校をモデルにしながらやったのですが、それ以来かなり手厚くやっているんですよ。けれども、現実的には、教員の時間外勤務を45時間以内という、全教員の平均としては、まだ達成できていないという状況があるということですね。これは人によって様々です。校務分掌を誰かのところに集めれば、その人が忙しくなって、なかなか帰れなくなってしまうということもありますので、どうやってそういう校務の体制を学校でも工夫していくのかというのが、今求められていることだと思います。

○増田委員

中学校の部活動は、どうですか。

○山田教育長

中学校の部活動についても、地域クラブ等への移行というのが話題になっていて、吉田町でも部活動指導員を付けることによって、教員の負担を減らそうとやっていますが。受け皿がどれだけできるかという問題と、どうしても部活動は大会がありますので、それを取り仕切っている中体連の組織というものからおりてくるものもあるので。強化サイドだけの試合になっていって、全て地域クラブ化していけば、そうした中体連組織もなくなってくるかもしれませんが、全国組織の中体連組織をどうしていくかということが、整理ができていかないと、今まで競技力向上を中学校の部活動に頼ってきたという日本のスタイルを変えていかないと、なかなか移行が進んでいかないという状況であると思います。そういう中で、教員も地域の指導者の1人だという形で、学校の教員としてではなくて、地域の1人として子供たちを指導していくという体制づくりをしていかないとなかなか難しくなってくるかなと思います。

○田村町長

非常に難しいのが、今増田委員がおっしゃった中学校でのいろいろな大会。基本的には教員とは関係ないんですよ。全く違うのだけれども、それが一つの体制としてできてしまっているの、非常に難しいわけですよ。本来教育とは関係ないんです。長い間に学校がある程度引き受けてきたところがあるんですよ。根本的な部分で非常に難しい問題を抱えてしまいますよね、これは。

それでは次に、「保護者（家庭）の教育ニーズに応じた環境づくり」ですが、皆さんから御意見を伺いたいと思いますが、増田委員からお願いします。

○増田委員

スクールソーシャルワーカーは、とても有効に活用されているのかもしれませんが、その存在を保護者が皆把握できているのかは疑問に思いますので、その辺の広報的なものを充実していただいた方がいいかなと思います。

あと、毎月の委員会の中で聞く問題行動の中には、ソーシャルネットワーク、SNSのトラブルが増えているような気がしますので、そういったところにも保護者だけでは対応できないケースが非常に増えていると思いますので、そういったワーカーさんを活用していただけるように広報もしていただいて、ワーカーさんの数も充実していただければと思います。以上です。

○田村町長

北澤委員、どうですか。

○北澤委員

保護者からしてみると、本当に安心して子供を学校に送り出せるという環境が整っていると思います。エアコンだったり、洋式トイレだったり。長男が小学校に上がった時はまだ和式が多くて、改修がされていないのでトイレを我慢しているという話をよく聞いたり、教室に近いトイレから匂いがしたりとか、子供たちが本当に嫌がっているという現状が、最近は清潔感があるトイレに変わっていて。本当に学校のLED化、明るく見えるのですね、学校の教室が。古い校舎だと日が差さないと真っ暗になるっていうのがあるのですが、そういった面でも明るい教室に見えたりとか。あとは、本当にエアコンの問題。真夏日が多いことだったりとかして、全国的には熱中症で亡くなってしまったお子さんもいらっしゃったり。保護者にとってはすごい不安材料だったものが、エアコンを完備していただいたということで、安心して学校に行かせることができる環境を整えてくださっているのが、すごく評価が高いのだろうと思っています。

ます。

先ほど増田委員も言われたとおり、相談場所というのも、このコロナ禍で子供の友達、いわゆるママ友と会える機会も少なくなって、学校の授業参観も行って話ができない状況が続いているということで、お母さんたちが安心して雑談を、アンケートにもあったのですが、雑談して子供の今の状況を話ができる状況というものがすごく少なくなってきていて。そういった面ではすごく不安材料だったり、ちょっとした相談をする相手が、やっぱりこのコロナの中でなかなかできないという状況があるので、そういった面ですごく不安を抱えている方も、特に小学校1年生、2年生。これから学校のこととかいろいろなことを聞きたい時に聞けなかった方がいらっしやると思うので、そういった方にこのスクールソーシャルワーカーさんを利活用していただきたいなと思っています。やっぱり、どう活用していいかが分からないという面もあるので、そういった面をうまく教えていただいて。こういう時にここに行けばこういう方がいる、ここに電話をするとこういうことが、こんなことだけでもいいんですよというようなことを周知させることってすごく大事なのではないかなと思っています。

子供たちが学校にいる時間、コロナで変動が激しくて、それに合わせて仕事を休まれている方もいらっしやって。夏休み明けは、吉田町は選択制だったのですが、学校登校日に家でのリモートとなった時に、すごく対応が早くて。しかもその選択ができるっていう状況がすごくありがたかったなと思います。みんなはどうするんだろうって思った時に、一応様子見でという感じでできたこともすごく良かったです。環境も整っていたのではないかなと。ちょうど私は焼津の小学校2年生の女の子がいる知り合いがいて、リモートなので連れてこられて、私の目の前でやっていたのを見たのですが、やっぱりいきなりやらされたんですね。いきなりこれでやりなさいと。全員皆リモートだからという回答の中でやっているのを見て、これをもう大変だなと。子供も何をしたらいいかが分からないという状況が、すごく親も対応に困っていたところがあるので。そういった面でも吉田町の対策というのが早くて、安心して行かせることができたので、そういった面でも他の市町よりも進んでいるなというのを実感したところです。

子供たちが本当に、個々が本当に今様々な個性があふれているという言い方がいいのでしょうか。本当に何不自由なく、何の問題もなく学校に行ける子、そういうお子さんをお持ちの御家庭。やっぱり学習面ですごく不安を感じられる御家庭。問題行動を抱えてどう対策していいかが分からないという御家庭とか様々ある中で、どの御家庭にいても、相談できる体制というのを手厚くしているというのを、やっぱり皆さんにも知っていただいて。問題が起こった時じ

やなくても、起こる前でもいいから、できる場所があるということを知っていただけるとすごくいいなと、整っているので活用して欲しいなと感じています。

○田村町長

塚本委員、どうですか。

○塚本委員

保護者の皆さんのアンケート等も、非常に評価していただいているのはありがたいなと思いますし、アンケートには肯定的と否定的な意見があるのですが、否定的な意見も前向きな意見をいただいているので、本当に吉田町としては、非常にありがたい支援ができています。保護者と子供と先生と、私たち教育委員会だと、保護者に近いものですから、先生だけちょっと違うところという感じにどうしてもなってしまうのですが、トリビンスプランスタートの時に、地域の保護者の説明会を何度も開いたのですが、理解してもらうことが重要だなと思っていて。町としては、吉田町の子供たちはこういうふう育てていきたい、こういうふう支援していますというのを、今一度保護者の皆様にPRするというか、理解していただくということも必要なのではないかなと思っていて。今年はコロナだったのですが、来年以降は少しずつ普通の生活に戻ってくることもあると思うので、ぜひ保護者の皆様にも、吉田町の子供たちの学力を上げる。学力だけじゃなくて、健やかに育てていただきたいという思いを共有してもらって、理解してもらって一緒に学校をやっていくと。

どうしても吉田町の先生は、他市町から越してきたり、また異動していなくなったりするものですから、その辺は保護者と町と子供たちと一緒にあって、学校環境を盛り上げていくという意味では、意識の共有っていうか、協力を保護者にお願いしていくことが必要なのかなと思っています。

○田村町長

中村委員、お願いします。

○中村委員

保護者の教育ニーズに応じた環境づくりという面で、高い評価を全てでいただいているなと思うし、特に公設学習塾だとか、放課後児童クラブだとか、そういった面では本当に充実しているなと感じています。その他にもあまり分かってもらえない部分ではあるのですが、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの取組などの内容が内容だけに、あまり宣伝しにくい部分もあるかなとは思いますが、本町は外部機関との、こういう人たちが外部機関と

よくつながっていて、非常によく連携が取れているなど感じています。特別支援学級の子供たちの人数が多いという点と語弊があるかもしれないのですが、本校に入級できているようなものも、例えば、就学時健診の時によく課題を持っているお子さんを拾って、指導に結び付けているのではないかなど。そういった教育委員会も含めた努力がされているのではないかなど思っています。そういった中で、保護者の困りごとを拾い上げているようなところがあるのではないかなど思っています。本当に給食も含めて、保護者の要求に応えていくことができるのではないかなど思っています。

#### ○山田教育長

今のお話の中で、例えば、相談員関係についても、保護者側でも相談員がいることをよく知らないという言葉が出てくるというのは、やっぱり広報をどうしていくかということがあると思うのですが。実は、広報をしていないわけではなくて、学校は必ず年度当初にはそうした体制を保護者に伝えるのですが、比較的多いのは、1回言って終わってしまうケースが多くて。しかもPTA総会あたり、今はコロナでなかなか集まれないということもあるのですが、PTA総会で資料の中に載っていて、一言言ったとしても、そこで終わってしまうと、タイムリーに子供のことで困ったことがあるという時に、どういう相談ができるかなという時に、そこにつながっていかないケースもあって。それをどうやって広報として、1回ではなくて、うまく保護者が活用できるような広報の仕方を考えていかなければいけない。ホームページに載せておいても、見ようとしらないというケースもあるかもしれないものだから、吉田町は「きずなネット」でいろいろな広報をしていくことができる体制が整っているものだから、そうしたきずなネットをどう活用していくかだとか、そこからホームページへ飛ぶというような形でリンクを張っていけば、そういえばきずなネットでこういうのが来たな、そこからリンクでホームページへ飛んで見てみることもできるだろうと思うんですね。

それともう一つは、以前、学校は必ず授業参観日とか学級懇談会というのが学期ごとにあたりだとか、定期的にやっていたものが、いつの頃からか主流が同一日ではなくて、保護者のためにと最初は思ったのですが、自由参観週間みたいに期間を決めたり、この日はどこの地区って決めたりとか、全体が一斉に集まるような参観日とか懇談会の機会がなくなってきているんですね。今まではそういう参観会あたりで、終わったら懇談会をやって、担任と保護者で子供の様子や家庭の様子をやりとりしたり、学校から伝えたいことというのを言ったりってやっていたと思うのですが。そういう機会も今なくなってきているものを、どうやって今度は広報というか、保護者に周知をしていくかという

ようなことを考えていかなければいけなくなっていることも事実かなと。そこに1人1台端末をどう活用できるかというのも、また絡む部分があるかなと思っと思っています。

それと、給食の提供日の話にもありましたが、ほとんど肯定的な意見なのですが、否定的な意見は、先ほど塚本委員が言ったように、前向きな否定的意見で、もっと増やしてほしいと。この前も給食の運営委員会があって、校長先生たちとも話をして、来年度の回数を申請してもらっている形になっています。年度当初というのはちょっと給食の体制づくりのために何日か欲しい。役割とかやり方を決めるのに何日か欲しいということだったり。以前は始業式とか終業式という日は、午前中で終わったりして、給食を食べないで帰ることが多かったのですが。最近は授業時数確保のために、終業式を5時間目に持って行って、午前中は授業をやるとか。始業式の日も1日やったりということが出てきているので、そういった意味では給食回数というのは、以前に比べたら結構増やすことができる形になっています。保護者の意見としても、やっぱり学校に行った時に給食があると本当に助かるっていう意見が多いので、どこまで増やせるかというのは、学校の教育課程と相談ですが。学校行事があると、どうしてもここは給食が出せない時があるものですから、そのあたりはまた校長研修会等も通しながら、可能な範囲で増やして欲しいということは、教育委員会事務局からもお願いすることができるかなと思っっています。

あと、先ほど広報的なところで、ICTの話が出ましたが、今度12月12日に3回目の親子体験会をやります。また、文書で各家庭にも案内をしますし、教育委員の皆さんにもお知らせをしたいと思いますので、御承知おきいただければと思います。

#### ○田村町長

今の教育長のお話を聞いていて、家庭のお父さん・お母さんの教育に対するいろいろな情報量が非常に大きいですが、なかなか思うように伝わっていない。昔は家庭訪問があって、授業参観があって、そういうものがなくなったわけですね。おそらく家庭の状況に応じて、学校側も対応すると思うのですが。その結果として、あまり現在やっていることについて、家庭にうまく伝わっていないところがあるものですから、やはり最後に教育長がおっしゃったように、やはりICTを使って、相互に双方向的にやるとか、平井先生の分野であるでしょうけれども、学校は今こんなことをやっているんだよということを伝える、家庭の方もこんなことをと伝える、そういった双方向的に常にうまく機能させてやっていけば良いのではないかと思っっています。

では、他に何か御意見はございますか。よろしければ最後の議題ですけれど

も、「子供、教職員、保護者を支える基盤的整備について」御意見を伺いたいと思います。それでは、北澤委員からお願いします。

○北澤委員

目指す状態が「日本トップクラスの教育環境を整える。」となっていて、すごくありがたいなと思っています。どんな未来が待っているのか分からないのですが、本当に子供たちが、私たちの幼少期の感覚とはやっぱり違った環境にいるということを改めて感じています。日常がどう変わっていくのか分かりませんが、徐々に変わっていくのだと思うのですが。子供たちが大人になって、働いていく場所に合った能力というものを、しっかり子供たちが小学校、中学校のうちに体験できる環境があるかが土台にあるんじゃないかなと感じています。

一番最後のウのコミュニティ・スクールに関しては、理想を語るとすると、つながりが大切になってくると思うのですが、やっぱり地域とのつながりというのを、すごくやはり大事にしていかななくてはならないのかなと感じます。これから活動というのを整備していく段階ですので、大切に私たちも取り組んでいきたいなと感じています。

○田村町長

塚本委員、お願いします。

○塚本委員

私、一番最初に話したこととかぶるのですが、このプランの一番の目的は、町長が話してくれた15歳で卒業した時に、県の他の学校から来た子たちよりも一つ抜きん出た状態でスタートさせたいというその思いが、一番のところだと思っんですね。そういった意味で、いろいろな施策を作って進めてきましたが、なかなか学力という成果においては、結果が出せていない状況があるということで、一番明確に指標として分かるのが学力なものですから、そこを改善していかなければいけない。そういう意味では、さっきの保護者の話は、保護者も理解してくれているし、評価してくれている。先生も理解をしてくれている。ただ、やっぱり授業改善すれば学力が上がると思ってきたのですが、なかなか時間を作ってやっても、そこがうまく機能しているのかなというところがあるので。ずっと考えていたのですが、教育委員会と保護者は、大体同じ方向かなという気がしているんですね。そうすると、今度始まるコミュニティ・スクールというのが一つのキモになるかなと思っていて。ここには、コミュニティ・スクールの整備となっていますが、コミュニティ・スクールを通じて、学

校の見える化を進めることが、すごく重要だと思っています。

コミュニティ・スクールを小中常に情報共有しながら、各学校の情報をコミュニティ・スクールの人たちが共有して、この町の方針も理解していただいて、学校に落とし込んでいって、学校に協力していくと。そういうことで、学校が見える化して、町の方針が学校に、今も指導主事を通じて行っているのですが、コミュニティ・スクールを通じても町の方針が明確になってくる。それを先生たちに理解をしていただいている、この町も、町に住む人たち、保護者も子供たちの15歳で卒業をした時に、一つ吉田町としていい子供たちを育てたいという思いがあることを理解してもらうことを、コミュニティ・スクールを活用することがすごくいいのではないかなと思っています。このコミュニティ・スクールのスタートの今準備段階の重要な時期だと思っています、今からそのコミュニティ・スクールをそういう意識で、その人たちに協力していただく、そういう組織にしていったら、きっと学校がもっと中が見えるようになって、改善するところが見えてくるのではないかなと思っています。

今3人の指導主事の先生が学校を支援してくれていますが、1校1人、あと1人でできればお願いできれば、より学校の支援ができるのではないかなと思っています。そして指導主事の方が、教育委員会の事務局が分かった人たちがまた吉田町の学校で教鞭を執ることで、交流の中でより町の方針を理解していただける先生を増やしていくことがいいのではないかなと思っています。

○田村町長

増田委員、お願いします。

○増田委員

これまでのお話にもあったように、快適な教育環境の整備、ICT環境の充実については、ほぼ履行されたと思います。ただ、中学校は、この前行った時、ディスプレイが小さいなと思っています。あとは、充実した環境をいかに生かすかだと思うのですが、僕は二つあると思っています、一つはICT支援員をできるだけもっとどう生かせばいいのかなということと、二つ目は、タブレットを持ち帰った子供たちが家で何をするのかだと思うんですね。教育長が先ほどおっしゃっていたMEXCBTというのを活用して、家で進度に合わせた、学力に合わせた自分のペースでやっていくというのができれば、変わってくるのではないかなと思いました。あと、塚本委員がおっしゃいましたが、私もコミュニティ・スクールにすごく期待をしまして。吉田探究とコミュニティ・スクールが結び付いたら、すごく面白いのではないかなと思います。他市町のCSディレクターの方の話聞いたのですが、かなり自由な発想で、教員の方が

思いつかないようなことを取り入れていくということも聞いたことがありますし、ぜひ自由な発想で、町と学校をつなげていただきたいと。

それと、吉田探究、特に防災というと、吉田町は津波避難タワーもありますし、防災公園もありますし、防潮堤もあります。その辺の吉田町が誇れるものをテーマとして、小学生、中学生が学んだことを、それを外に発信することができればいいのではないかなと思います。

○田村町長

中村委員、お願いします。

○中村委員

ずっと出てきているのですが、環境の整備については、本当に充実しているなと思います。先ほどもありましたが、電子黒板があるとさらにいいかなと思うところはあります。もちろん入っているところもあるのですが、入っていないところもあるので、そういったものを充実するといいいかなと思います。

コミュニティ・スクールについては、どういったものになってくるのかなというのを、あまり知らなくて申し訳ないのですが、学校と地域の人材をどうつないでいくかというのがポイントになってくるかなと思うので。どういったことをCSディレクターの方にお問い合わせするのが一番キモになってくるのかなと思います。そういった意味で、学校に地域の情報っていうか、地域のそういった人材を学校にできるだけたくさん伝えていただければありがたいなと思います。本当に学校に何とかしてあげたいという人たちは結構いっぱいいるのではないかと思いますし。実際に近所において、何も言わずに玄関に花を置いてくれたりとか、あるいは学校の周りをほうきで掃いたりとか。場合によっては、花壇の草取りをしてくれる方もいるんですね。そういった方々の御協力みたいなものが、もっと大きな面で得られると、もっと素敵な学校になるのではないかなと思います。

○田村町長

それでは、教育長、総括して。

○山田教育長

環境整備については、以前、町長や副町長と話した時に、これだけ整備はされているけれども、吉田町以外の他市町はどうなんだということが話題になったのですが。ちょっと調べてみたら、1年前の令和2年9月1日現在という資料ではあったのですが、空調の設備の整備実施状況、要は、エアコンの整備状

況ですが、静岡県の35市町の状況がネットに出ていて、普通教室と特別教室と体育館という三つに分かれていて、吉田町は全て、100%なんですね。それで、県内全体の設置率を見ると、普通教室は90.8%。まだ整備されていないところがあるということですね。それから特別教室に至っては、県全体で32.5%だったんです。体育館に至っては1.3%。今言った普通教室、特別教室、体育館と全部エアコンが整備されているというのは、県内では吉田町と長泉町の二つだけでした。それから、トイレの洋式率については、これは県内の数字が出ていなかったものですから、全国の県別の数字が出ていました。静岡県は洋便器率というのが、53%だったんですね。全国が57%だったんです。今吉田町は100%という形になっているので、中には和式の使い方も教えないと不安だよという保護者の意見もありますが、そうした意味ではかなり整備をされていることで、きれいにもなっているものだから、保護者の方からすると本当に安心ができるということがあったので、他市町比較からしても、かなり進んでいるという状況は分かりました。

結局こういう整備をするには、大きなお金が掛かってくるものだから、我々からすると、どうやって計画的にこういう環境整備をやっていくかというのが、1年間で全てのトイレをやろうと思っても、かなりのお金が掛かってしまうので、そうした年次計画をきっちり立てていかなければいけないだろうと思っています。

それと、コミュニティ・スクールに関しては、やっぱり地域とのつながりという意味では、コミュニティ・スクールを有効に活用していくことで、より進んでいくのだろうと思います。今生涯学習課がやっている地域学校協働本部、そういった事業の中で、社会教育委員が一生懸命動いてくれて、学校とのつながりを作ってくれているのですが、そこのタイアップをしながら、地域とつながりながら、地域全体で魅力ある学校にしていこうというつながりを持っていくことで、おそらく子供や教職員も、学校自体が地域に誇れるような学校になっていき、そうなっていくと今度は地域の住民たちが、地域がその学校を誇れるような存在になっていくという、相互補完をしながら、お互いに誇れるような状況になっていくのが、学校づくりとしては、一番スムーズにいくのだろうと思いますので、そうした意味で行政の方も環境づくりをどうバックアップできるかということは、考えていかなければいけないだろうと思っています。

それから、前の話とつながってしまうかもしれませんが、ICT支援員だとか、ICTの持ち帰りの話がありましたが、やっぱり保護者の中には、少なからず不安を持っている方が、やはりいるんだなということ。ICTの使い方自体が、さっきの問題行動でないですけども、SNSの使い方によっていじめが起きたり、変なサイトに行かないかという心配があると思うので、

そうした指導を含めて、不安を取り除くことはしていかなければいけないかなと思いますので、親子体験会だけではなくて、それぞれ学校の方がよくPTAの講演会などをやって、ICTをテーマにしながら、講師を呼んできたり、警察を呼んでみたりとかやっているところがあると思うんですね。そうしたこともうまく活用しながら、不安を少しでも取り除いたり、指導をしていったりということが今後必要になってくるかなと思いました。

○田村町長

先ほど塚本委員がコミュニティ・スクールは、学校の様々なもの、教育を含めて見える化していくだろうと。それは確かにそのとおりなのですが、その時にいつも思うのですが、先生たちの世界というのは、開放的な世界ではないんですね、外から見ると、非常に閉鎖的な世界ですよ。先生方はそれを理解しているか分かりませんが、本来的にそういったものがあるんですね。コミュニティ・スクールというものは、学校という閉鎖空間をこじ開けて、地域に学校というものをより良く見せて、いわゆる地域との双方向性がうまくいけばいいと思うんですが。そういうふうなところで、一つ考えていくことが必要だと思うんですね。まあ、非常に忌憚のない言葉でそう言ったのですけれども、そういったところがあるのではないかと思うんですが。中村委員、どうなのでしょう。

○中村委員

自分も前任校で立ち上げてきたのですが、今までだと、お願いした方が協力的にやってくださっていて、地域とのつながりを持たせてくれて。部屋というか、コミュニティ・スクールのルームがどこにあるかも結構重要な問題になってくると聞いています。前任校では、外側からスッと入れる昔の昇降口だったところを使っていたので、地域の人々がすぐに学校に訪れやすいように場所を確保することができまして。そういった意味で、地域の人たちが気軽に立ち寄れるようなスペースというか場所というか、そういったものがあると、コミュニティ・スクールというのも充実してくるのかなと思っています。

○田村町長

あと何か申し述べたい意見などありますか。よろしいでしょうか。

本日皆さんに御意見を伺う内容は、以上となります。ここで、事務局で教育委員の皆さんからいただいた御意見を簡単にまとめていただけますか。

#### ○事務局

教育委員の皆様、多くの貴重な御意見をいただきありがとうございました。本日いただいた主な御意見といたしましては、まず一つ目の「子供の『確かな学力』を保障する環境づくり」については、施策としては、平準化を始めとして、非常に有効であるということなのですが、目標とする成績については、県の平均になかなか至らないというところで、今後、ICTを活用しながら、個別最適化、それから学習進度に応じた取組等、指導力の向上に向けてやっていく必要があるというような御意見をいただきました。

二つ目の「教職員が授業等に専念できる環境づくり」につきましては、人材については、校務アシスタントを始め、非常に充実しているということで、このまま続けていただきたいということ。もう一つは、研修体制については、ICTに関係することも含めて、さらなる充実が必要であるというような御意見をいただいております。

それから、三つ目の「保護者（家庭）の教育ニーズに応じた環境づくり」につきましては、給食、放課後の居場所づくり、問題行動における相談体制についても、それぞれ施策としては非常にいいという中で、例えば、問題行動については、広報についてのやり方についても一度再考する必要があるというような御意見をいただきました。

それから四つ目の基盤的整備につきましては、非常に町の方は良くやっただいただいているという中で、今後始まるコミュニティ・スクールについては、町と学校をつなげるための学校の見える化というところで、うまくいってもらうように期待したいという御意見をいただいたところです。

これ以外にも、今日は多くの御意見をいただきましたので、改めて事務局内で整頓をさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

#### ○田村町長

それでは本日の議事、TCPトリビンスプランにつきましては、本日の意見交換の内容を踏まえた上で、事務局案のとおり取組を進めていくということでよろしいでしょうか。

{ 異議なし }

#### ○田村町長

ありがとうございます。皆様の御了解をいただきましたので、事務局はそのとおり進めていただきたいと思っております。

以上で、本日の議題であるTCPトリビンスプランにつきましては、終了と

いたします。ありがとうございました。

### **3 閉会**

#### ○事務局

町長ありがとうございました。委員の皆様、長時間にわたり誠にありがとうございました。以上をもちまして、令和3年度吉田町総合教育会議を閉会いたします。最後に相互の挨拶を交わしたいと思います。ご起立ください。礼。